



ふじお たかし

藤尾 孝 氏

第12回 1996年 高柳記念賞

「ハイビジョンの研究開発、実用化に関する業績」

藤尾 孝氏は、昭和 25 年 4 月に日本放送協会に入局し、ハイビジョンの基礎研究から実験システムの構築、さらには実用化に至るまで一貫して研究開発を推進するとともに、国際的な規格統一に向けた活動を行うなど、先導的な役割を果たし、以下に要約される数多くの独創的な研究業績を挙げている。

- (1) 現行テレビに続く次世代テレビとしてのハイビジョンの研究開発にあたり、人間の視覚心理効果に基づいたシステムとするため、画面の画角、形状、サイズ、視距離などの物理量と臨場感・迫力の心理量との関係を調べる視覚心理実験を行い、ハイビジョンは画面高の約 3 倍の距離で見るので、現行テレビの 5 倍の情報量が必要であるとの結論を導いた。これにより、システムパラメータが明らかとなり、放送システムの基礎を築いた。
- (2) システムパラメータの基礎研究に基づく実験システムの構築に必要な、カメラ、VTR、テレシネ、フィルム録画装置、ディスプレイなどのキーデバイスを開発するため、開発研究を統括、指導し、次々と独創的な技術を導入しながら試作を進めた。その結果、昭和 60 年の筑波科学博の時点において、暫定規格ではあるが、撮像、伝送、受信に至る一連の実験システムをまとめ挙げ、放送実験の形で技術的な可能性を示した。
- (3) 実用化に際しては、ハイビジョンの導入効果が放送分野だけでなく、映画、印刷、出版、教育、医療、コンピュータなど、あらゆる映像分野に及ぶことを早くから予測し、その重要性を説き、産業界への協力を呼びかけた。規格統一へ向けての世界的な働きかけは、ITU—R での HDTV 規格の勧告化につながり、今日のハイビジョンを中心としたデジタル映像時代を拓いたと言っても過言ではない。これにより、産業界が一体となってハイビジョンの実用化を推進する体制が芽生えた。
- (4) 日本放送協会を退職後は、松下電器産業株式会社において受信機を中心としたハイビジョン機器の開発責任者として、自らハイビジョンの実用化推進の任にあたり、ハイビジョン機器の高性能化・低廉化を進めるなど、ハイビジョンの普及促進に多大の貢献をした。

経 歴 昭和 5 年 1 月 31 日生

学 歴 昭和 25 年 兵庫工専(旧制) 電気科卒業

職 歴 昭和 25 年 日本放送協会 入局

昭和 29 年 放送技術研究所 カラーテレビ方式の研究に従事

昭和 45 年 放送技術研究所 ハイビジョンの研究開発に従事

昭和 60 年 放送技術研究所 所長

昭和 61 年 松下電器産業株式会社に移る

昭和 63 年 技術本部 ハイビジョン開発センター所長

平成 7 年 定年退職

平成 7 年 大阪工業大学 情報科学部 客員教授 現在に至る

学 位 工学博士(カラーテレビジョン色再生系の研究)

受賞歴 テレビジョン学会 丹羽高柳論文賞(昭和 41 年)、功績賞(昭和 60 年)

デヴィッドサーノフ・ゴールドメダル賞(SMPTE 米国) (昭和 56 年)

科学技術功労者賞 (昭和 58 年日本)

紫綬褒章—ハイビジョンの研究開発—(平成 5 年)

IBC'90 Award(英国) (平成 2 年)

Pioneer's Award—IECF(スイス) (平成 6 年)